

不況で失職した元派遣社員ら

「協同労働」で再起図る

不況で失業者が増える中、「協同労働」という働き方が注目されている。労働者協同組合に加わり、働く人が地域に密着した事業に出資するものだ。「収入は少ないが、突然解雇される心配がなく、やりがいもある」。失職後、地元で組合員として再起を図る元派遣社員らが増えている。

仙台市出身の佐藤幸輔さん(31)は、宮城県内にある大手電機メーカーの工場に派遣されていた昨年11月、派遣契約を中途解除された。「妻は2人目の子どもを妊娠中で働けないのに、いきなり仕事を奪われた」

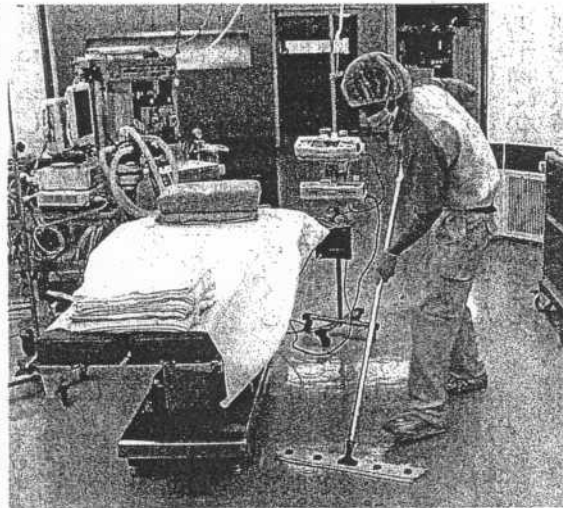
地元で3社の正社員採用試験を

受け、書類選考で不合格に。宮城県塩釜市で4月、全国組織「日本労働者協同組合連合会センター事業団」が仙塩事業所を設立すると知り、面接を受け組合員に採用された。

5万円を出資。仕事は病院の清掃で、賃金は宮城県の最低賃金を7円上回る時給660円。月に20日ほど働いて月収は10万円弱と収入は半減したが、派遣時代とは働き方が変わった。

「目の前の仕事を淡々とこなす派遣では、働く意欲がわかなかつた。時給は安いが出資して働くので切られる心配がない。長く続けられそう。職場の皆と仕事を増

自ら出資・運営に「やりがい」



病院の手術室をトップで清掃する岩本和也さん(宮城県塩釜市)

労働者協同組合 働く人が協同で出資、経営し、物を生産したりサービスを提供する協同労働の組織。法的な根拠はなく、特定非営利活動法人(NPO法人)や企業組合などの形で運営するケースも多い。超党派の国会議員約190人が参加する議員連盟が、法制化を検討中。労働基準法上の労働者は企業などに雇われて働く人を想定しており法制化で組合員はその対象外となるため、労災や雇用保険の扱いをどうするかなどの課題がある。

話した。

「やりたい」と語る。

同僚で同県七ヶ浜町の岩本和也さん(22)は愛知県の部品工場で、期間従業員として働いた。地元を離れての寮生活。友人が少なく、休日には部屋にこもりテレビを見て過ごすことが多かった。

昨年10月、期間従業員の契約更新を拒否され失業。今は両親と暮らす。「趣味の海釣りに出かけた

り、高校時代の友人に会ったりと安心感が増した。新人でも出る仕事への意見が取り入れられ、充実した気持ちで働ける」と

山など各県で働いている。

協同労働を始めて14年目の高橋比呂志仙塩事業所長(49)は「責任を分担しながらやりたいことをどんどん提案し、地域で必要とされる仕事をすれば、ニーズも増える」と話している。

同事業団によると、協同労働には国内で約10万人が従事し、児童館の運営や介護、農業などの事業もある。2人と同様に失業した元派遣社員らが、栃木、神奈川、岡